

第57号 通巻11巻第2

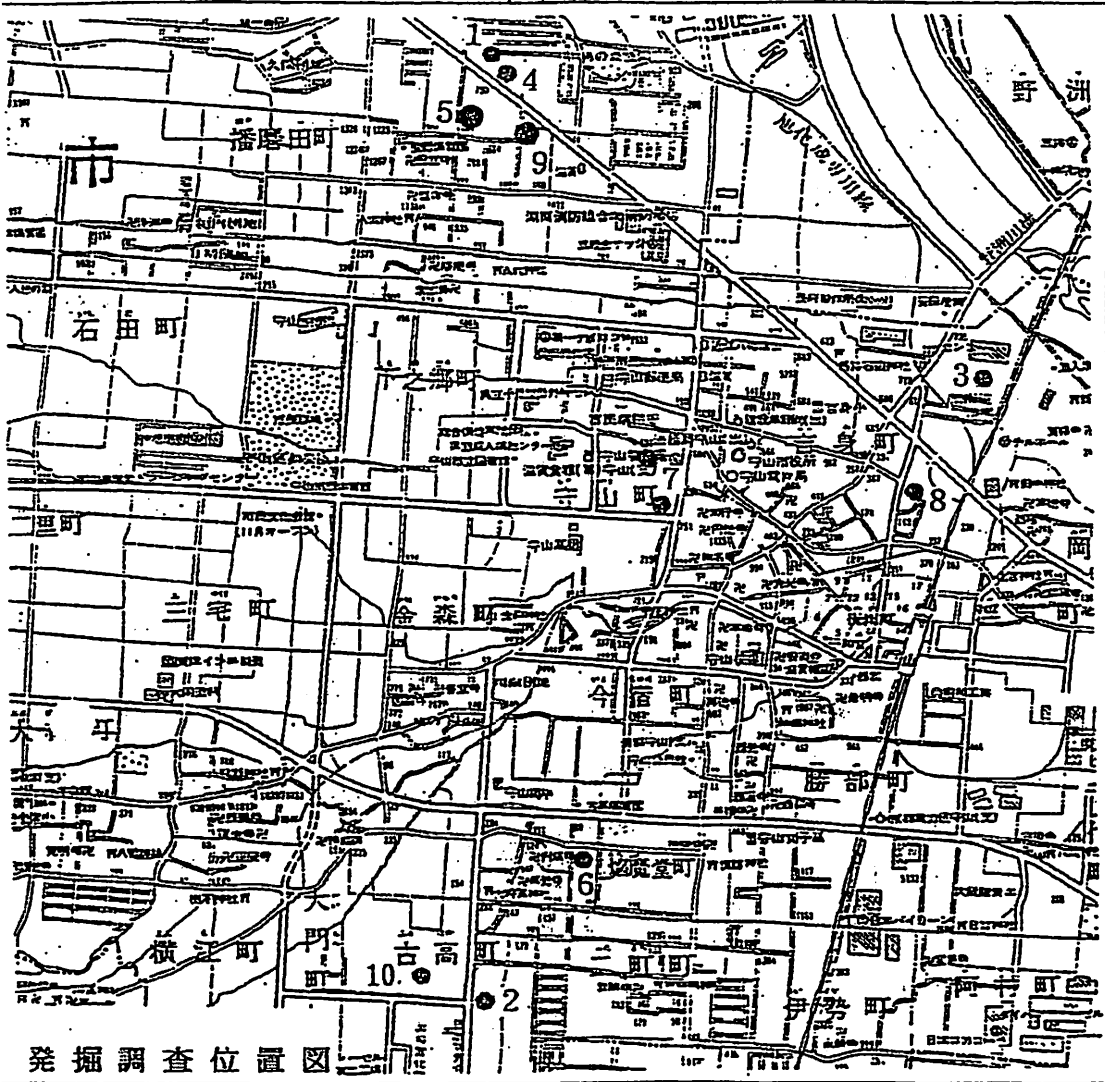
1991年7月1日 発行

守山市立埋蔵文化財センター

☎ (0775) 85-4397

〒 524-02

守山市服部町2250番地



発掘調査位置図

☆調査終了☆

1. ハノ坪遺跡 - A地点 -

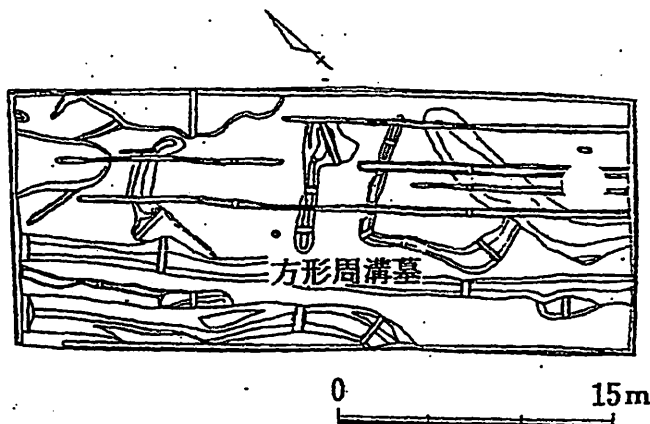
4月5日から8日間、播磨田町字南横田において店舗建築に先立って発掘調査を行いました。調査の結果、東西方向の溝を1条検出しました。溝の規模は幅約11.3m、深さ約20cmで、溝内からは弥生時代中期後半頃の土器が少し見つかりました。この溝から北は遺構が発見されていないことから、今回の調査地点が遺跡の北限ではないかと考えられます。

2. 塚之越遺跡

前号で一部お伝えした塚之越遺跡の発掘調査は4月26日で終了しました。検出した遺構は弥生時代後期の方形周溝墓7基、平安時代から鎌倉時代にかけての掘立柱建物、鎌倉時代の井戸などがあります。方形周溝墓のうち4基は溝を接して、東西方向に2列に並んでいます。又、2基はこれらよりも少し方向が異なり、大きさも一辺5m前後とやや小型です。調査区北隅の方形周溝墓は元年度の調査成果と合わせると、規模が一辺10m近くになると考えられます。遺物は溝内から弥生時代後期の土器（壺、高杯など）が出土しています。鎌倉時代の井戸は検出したところから1m程の深さから井戸枠に使用したとみられる直径60cmの曲物が二段残っていました。曲物の中から土師器皿や黒色土器椀などがたくさん出土しました。

3. 益須寺遺跡

4月22日から吉身町地先でマンションの建築に先立って、約800㎡を対象に調査を進めて来ました。その結果、弥生時代後期の方形周溝墓、奈良時代の大溝、中世の耕作痕を検出しました。方形周溝墓は4基見つかりましたが、いず



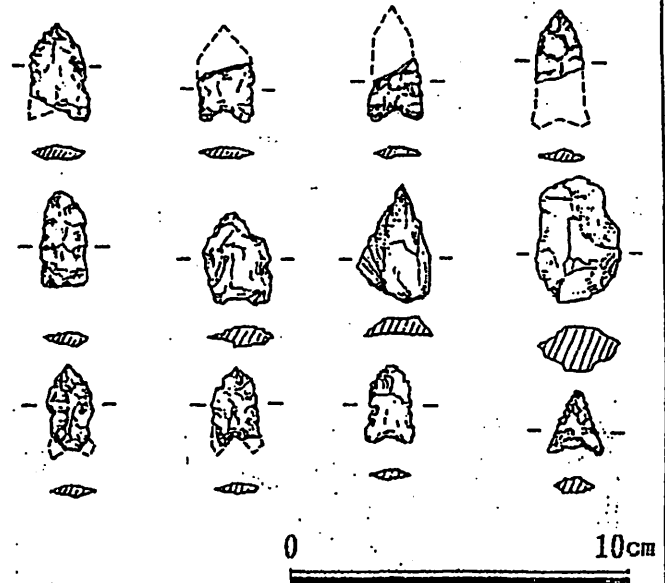
益須寺遺跡遺構平面図

れも溝の残り具合が悪いためか、L字又はコの字をしていて四周していません。規模は一辺が8～13m程あり、溝底から弥生時代後期の壘などが出土しました。今回の調査地から西へ50mの地点では、過去の調査で弥生時代後期の方形周溝墓が3基発見されていることから、当時この一帯に墓域が広がっていたものと考えられます。

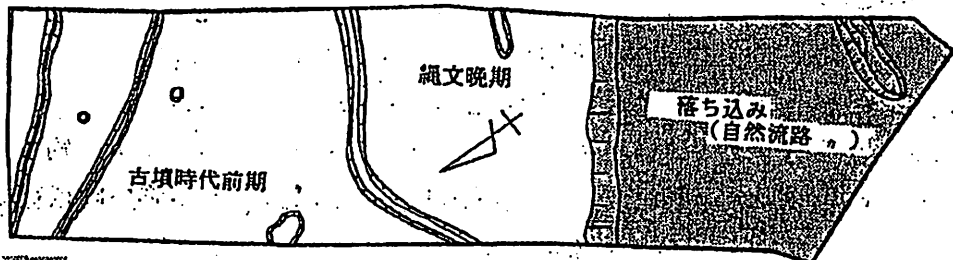
4. 八ノ坪遺跡 - B地点 -

播磨田町字八ノ坪で宅地造成に先立ち、4月25日から5月8日までの期間で約240㎡を対象に調査しました。その結果、表土の30cm程下から縄文時代晩期の溝と落ち込み、それに古墳

時代の小溝が発見されました。縄文時代晩期の落ち込みからは土器や石器（磨石や石鏃の製品・未製品）が出土しました。石鏃はすべてサヌカイト（硬質の石で、縄文時代には石器の材料によく使用されたようである。奈良県と大阪府の境の二上山が有名な産地である）製で、同時に剥片やチップ（削りかす）が多量に見つかっていることから、近くで石器作りが行われていた可能性が考えられます。



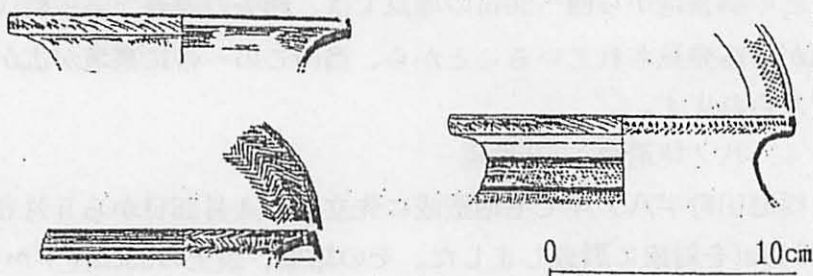
八ノ坪遺跡出土石鏃実測図



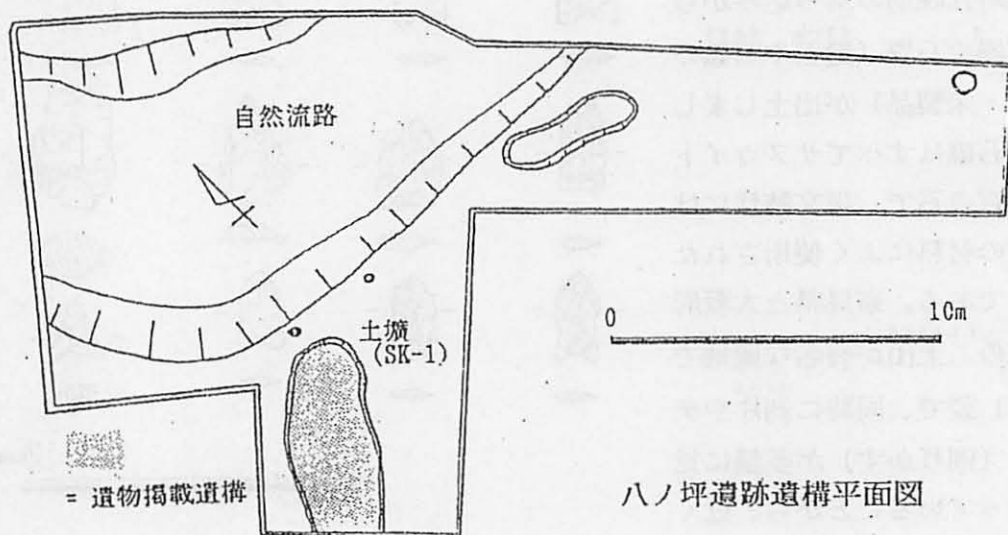
八ノ坪遺跡遺構平面図

5. 八ノ坪遺跡 - C地点 -

5月9日から18日にかけて播磨田町字京法花寺でアパート建築に先立ち180㎡を対象に調査を行いました。その結果、表土下30cm程のところで弥生時代中期末の土壙と古墳時代前期の自然流路しぜんりゅうろが分かりました。



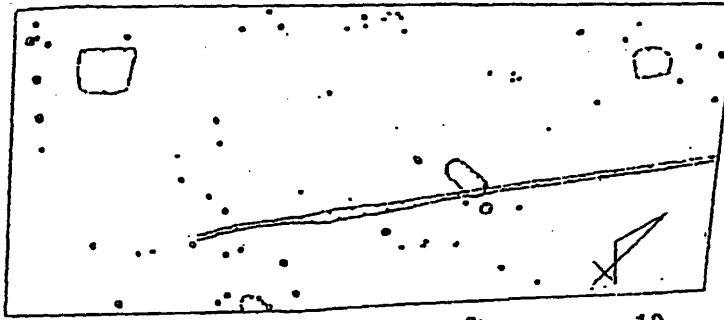
八ノ坪遺跡出土土器実測図



八ノ坪遺跡遺構平面図

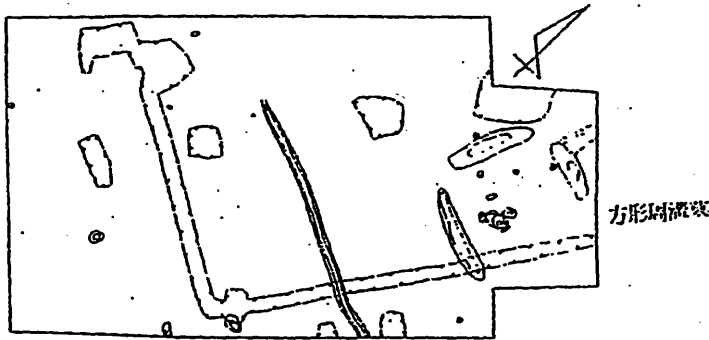
6. 古高城遺跡

古高町字東円前で、市営アパート建築に先立って約1,900㎡の面積を調査しました。その結果、方形周溝墓、溝、土壙をはじめ多数の柱穴が見つかりました。方形周溝墓は溝が四辺のうち東側の一辺が検出されませんでした。約8m四方の大きさであると考えられます。今回検出した遺構の時期は弥生時代後期から古墳時代はじめの頃と考えられます。



0 10m

古高城遺跡調査平面図



方形周溝

7. 吉身西遺跡

4月中旬から5月末までに個人住宅建築に先立って守山町字南高田で2件の発掘調査を行いました。1件は遺跡の南端に位置するところで、古墳時代後期の溝1条、平安時代以降の溝3条を検出しました。もう1件は守山警察署の西側、古墳時代から平安時代の溝を6条検出しました。いずれも遺構の密度は低く、集落の縁辺にあたるものと考えられます。

☆調査中☆

8. 益須寺遺跡

吉身町字泉海道において、6月10日から7月末までの予定で調査を開始しました。昭和54年の隣接地の調査では、奈良時代の掘立柱建物や溝、それに瓦が多量に見つかっており、今回の調査でも奈良時代の遺構が発見されることが期待されます。

9. 酒寺遺跡

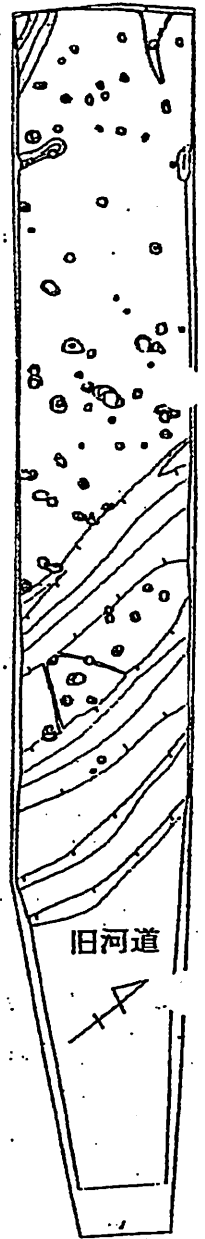
6月4日から播磨田町字上駒で宅地造成に先立ち、約500㎡を対象に調査を進めています。調査地は一昨年調査で弥生時代中期から後期の方形周溝墓が30基程発見された場所の隣接地に当たります。現在調査中ですが、弥生時代中期の方形周溝墓が1基検出されています。今後の調査によって方形周溝墓群の広がりが明らかになるものと期待されます。

10. 下長遺跡

古高工業団地で実施している発掘調査は2地点が終了し、現在3つ目の調査区で調査が進められています。終了した2地点からは古墳時代前期の集落と旧河道が検出されました。現在調査中の地点の大部分はこの旧河道にあたり、中から大量の土器をはじめ、鋤・杵などの農具、弓・錘（おもり）などの労働具、盤・槽などの容器、梯などの建築材、刀や船を模したもの（祭りに使用したもの）など様々な木製品が見つっています。調査は7月末まで続けられる予定です。

☆講演会を開催☆

埋蔵文化財センターでは去る6月22日に「粟津湖底遺跡のはなし」と題して、講演会を開催しました。当日は滋賀県文化財保護協会技師伊庭功さんを講師は迎え、スライドを交えながら粟津貝塚について講演をしていただきました。30名を越える参加者は縄文人の暮らしぶりを聞きながら、はるか縄文時代に思いをはせていたようです。



下長遺跡遺構平面図